

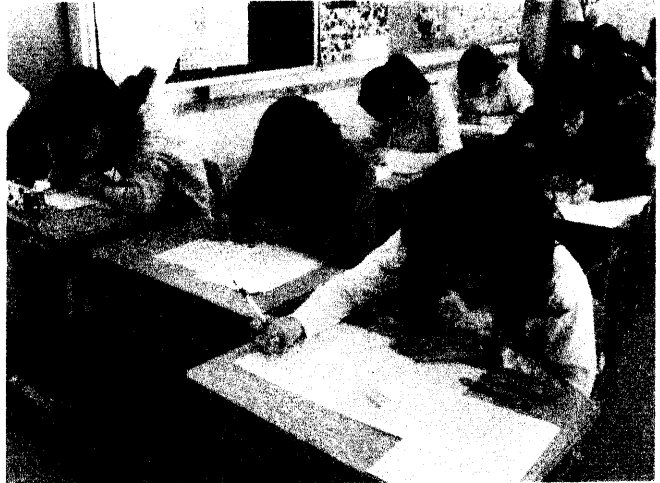
新聞を「見る」から「読む」へ

幕別町立白人小学校 森 久 彰

1. はじめに

子どもたちに新聞の切抜きを配ると、何が書いているのかと興味を持って読んでいる。家にも新聞はあるのに、毎日発行され届けられているのに。きっと、新聞は取って「いる、ある」ということで、取って「見る」ということが少ないからだと思う。さらに、新聞を手にとって「読む」となると、さらに少ないのではないだろうか。

とはいえ、切抜きを手にした子どもの姿は、真剣である。記事を読み、考え、思いを表現するのである。



今の私は、新聞は活用の仕方ですばる教育的效果を得ることができていると感じている。そして、「新聞」をさらに効果的に活用していくにはどのようにするといったのを課題として持っている。

今回の報告にあたって、ある日の朝の会でのスピーチが実践を積み重ねるきっかけとなった。「新聞」を手にして自分の思いを表現する子どもの姿を見て、これを生かせないだろうか。それが、私の実践のはじまりだった。

その後、一つひとつ取り組んでみるうちに、子どもの変容から手ごたえを感じる。それを継続して取り組む。そのうち、何か物足りなさを感じはじめる。「何か」を考え、補えそうなことに挑戦してみる。そして、また少しだけ手ごたえを感じる。このらせん状に繰り返すことを重ねてきた。

「新聞を活用して」一年目の取り組みであるが、日々の学習への取り入れてきた歩みなどをご報告したいと思う。

2. 取り組みの概要

(1) スピーチの題材に

4月。国語の教科書にスピーチ教材がある。数時間の扱いだったが、これを朝の会で二人ずつスピーチすることを継続して取り組んできた。はじめは、自分自身に関することや自分の興味のあることをテーマとしてスピーチする子どもが多かった。それに対して聞き手は感想を言ったり、質問を投げかけたりした。次第にテレビの情報、話題となっているニュースをテーマにする子どもが出てきた。報道されたことに関して、知っていることには答えることができた。朝のニュースなどは、次々と話題が放送されるため、ちょっと深い質問をされると答えることができない、ということが多く見られた。

7月。新聞を活用してのスピーチが日常的に行われるようになり、1ヶ月余りが過ぎた頃。スピーチの中だけでは自分の思いや考えたことを表現するには、日々の取り組みからの慣れや時間的なこともあり、マンネリ気味になってきた。しかし、子どもたちの思いを知りたいことと、表現する場を設定していきたいと考え、ノートに書くようにした。より深く、何を考えているのかを、どのような思いでいるのかを知りたかった。記事の内容やテーマは、これまで同様に自分の興味のある内容ならなんでもよいとした。ノートを見開きで使い、左のページに記事。右のページには自分の感想や考えたことを書くこととした。様々な記事をもとに、子どもたちは自分の考えを表現してきた。良かった点は、スピーチのように順番ではないので、子どもが毎日表現する場をもてたことである。一方でスピーチのあとの質問や感想のやりとりがなくなるので、子どもたち同士の交流という面では、課題となった。

■ 社 説

脱毛、意識不明、流産も

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

[illegible]

卷之六

二重被爆が示すむごさ

広島と長崎

[illegible][illegible]

(3) お互いの思いを知ることに・・・(資料1)

11月。しばらく新聞の実践からはなれていた。日々の実践に埋没していた。そのようなときに、「いじめ」を苦に自殺するということが起こった。報道を見て、子どもたちもそのことを知っていた。各学校での対応も行われた。新聞にも大きく書かれていた。

そこで、記事を印刷し、「いじめ」について子ども達と考えることにした。記事を読んだ感想を書くことにした。作文として書いたその内容を、私自身の情報として持っているだけではだめだと思った。子どもの作文を、その感想を、子どもたちに返した。パソコンで打ってあるそれらの内容を子どもたちが読み、再度感想や考えを書くようにした。

一つの記事の内容から、39人の思いを共有し、さらに考える機会とした。それぞれの感想を読んで、さらにそれをもとに感想を書く。

このことを通して、いつも共に学校生活を送っている仲間の思いを更に知ることとなった。

(4) 伝えたいことを発信するために・・・(資料2)

国語では、説明文を段落ごとに要約し文章構成を考えたり、文章全体を通してダイジェストのようまとめたりしてきた。物語文では、作品の主題を考えるとき、伝えたいことをコンパクトにまとめたりしてきた。また、社会で歴史上の人物やその時代のまとめとして新聞作りを行ってきたが、タイトルや見出しを工夫して、読み手を引き付けるようにしてきた。

そこで、新聞の見出しを考えることを行った。タイトル部分を○で抜いて、記事の内容をもとに子どもたちが考える。まずは取り組みやすいように、文字数を限定して行った。記事の内容は、スポーツ、社会、十勝のことなど、馴染みのあるものを選んだ。クイズを解いていくような感覚で、楽しみながら考えていた。要約する力とはいえないという課題もあるが、記事を読み、何が大事なのか、何を読者に伝えたいのかを考えることができた。

用意するもの：新聞記事のプリント(全員分)

やり方

- ① 教師が予め記事をひとつ選び、その記事の見出し部分を切り抜いて、その空欄部分に○(文字数)を記入。それを原稿用紙に貼って印刷する。
- ② 児童に①のプリントを裏返しに配布。
- ③ 「全員起立。記事を最初から最後まで黙読します。制限時間は2分。読み終わったら着席して、この記事にふさわしい見出しを考えて記入しなさい。」と指示。
- ④ 児童は、指示通り記事を読んだ後、見出しを考えて記入する。

題材にする記事(よいと思う内容)

- 児童に人気のスポーツ選手などが活躍した記事。
- 国際、政治、経済、科学に関する記事など、学習に役立つ内容の記事



(5) 今年一年を振り返るときに・・・(資料3)

1995年から始まったその年の世相をあらわす「今年の漢字」を、学級目標に盛り込んでいる。漢字一字で、学級目標をとするのである。昨年は「絆」、今年は「優」。6年生として下級生に優しい存在に、最高学年として優れた存在に、という願いを込めている。

12月。新聞に今年一年のニュースが載る。道内、国内、国際と、振り返ってみるとそういえば、という内容が多い。5月、6月にスピーチしていたころの内容も、ずいぶんと昔に思えるという子どもたちの声も聞こえてきた。

そこで、今年の漢字を予想することとした。

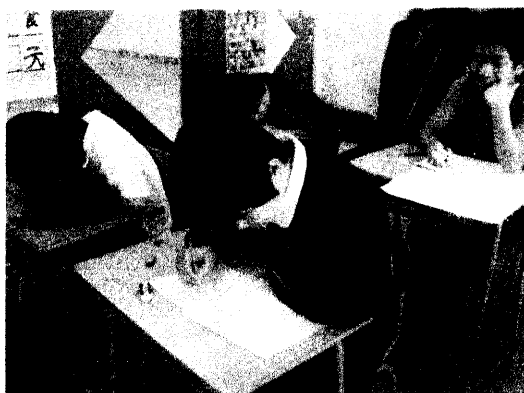
(2006年の漢字は「命」12月12日 漢字の日に発表)

新聞記事をもとに、どんなことがあったのか改めて読み返す子どもたち。理由も考え、漢字辞典を手にして考えていた。発表される前日には、どの漢字になるのか話をしている。家の人も一緒に考えていることを耳にして、話題の一つになりうれしく思うこともあった。

発表後、次に自分の「今年の漢字」を考えた。昨年も取り組み、色紙に書くことを楽しみにしていた。

3. 成果と課題

子どもたちにとって、新聞が「ある、とっている」から、新聞に「目を通す」、新聞を「読む」という変化を求めてこれまで取り組んできた。もっともっと、子どもたちが新聞を身近に感じたり、考えたりすることができると思っている。また、新聞を活用した取り組みをすることを通して、指導者にとって、新聞が教材となることの認識を持った。手探りの状態ではあったが、子ども達と共に取り組んでみることで手応えを感じた。新聞は、教材の宝庫である。各教科、道徳、総合的な学習の時間をはじめ、学校の教育活動全体の中で活用することができる。これからは、それをどのように活用するか、が課題になってくる。計画的に。そしてタイムリーに。クロスカリキュラムとなるように、各教科との関連をはかり、意図的に取り組むことができるようにしたい。そして、その時の子どもたちの状況や社会の変化など、みんなで共に考えたりすることができる内容を、タイムリーに提示することも必要である。そのためには、私自身がアンテナを高くして、多くの実践の情報を集めることが必要と考える。新聞はすみずみまで教材として活用できることがわかった。でも、今の自分では、子どもたちに「使える」と思うのはわずかしかない。多くの実践を学び、様々な活用方法を知ることが、これからも積極的に行っていきたい。そして、子どもたちも私自身も、新聞を通してリテラシーを育て高めることを目指して、今後も取り組んでいきたい。



松坂フアンに別れ

私は、いじめにあったことはいじめ、このごろテレビでいじめにあった人がどんどん死んでいくのを見ます。私は、「いじめ」ということは、すごく最低な人がやることだと思っています。それに、いじめにあっていいる人がいるとわかっておきながら、無関心な教師とか友達、もっと最低です。

私は、ふざけ半分で友達に、さげられたりしたことがあります。そのときは、すごくシロブックでした。だけど、これがもしも、本当にやられていることだったら、もう私は一人なんだから黙っていたかもしれませんが。

いじめのことは、よくテレビや新聞で見ている。最近はいじめられた子が自殺する事件があらわって、いじめられてもがんばっていきているほうが、死ぬよりずっといいと思う。いじめられた子は、勇気を出して先生や親、誰でもいいから相談するのが一番いいと思う。相談されたほうもちゃんと相談のつてあげて、話を聞いてあげたいと思う。いじめた子は、軽い罰でいいから与えるべきだと僕は思う。

(前半略)・・・色々な人がいじめをされて死んでいるのに、まだ人をいじめている人がいるなんて、ありえないと思う。テレビでもたくさん報道されているのに、どのくらい深刻な問題なのかをわかっていないなんて、とても考えられない。人の命をいいたいんだと思っているのか。命は一つしかないのに・・・生きる氣力をなくして、死んでしまうなんて、いったいどのくらい、ひどくいじめをしたのだからと思うました。

・・・生きてさえいければなんとかなるのに、死ぬなんて、ぜったいにやめてほしい。いじめた人から逃げずに、生きる氣力を無くさずに、ぜったいに死なないようにしてほしい。

(前半略)・・・自分が思ういじめは、悪口、無垢とか、他にもいろいろで、先生にまでいじめられたら、学校に逃げ場がないし、ふつうの切り傷とかだったら時間がたてば治るけれど、心に負った傷は絶対に、一生治らない。だから、自殺まで追いつめるのはげにやめてほしいと思つた。かげで、こそこそ悪口なんて言っていないで、正々堂々と、自分だった言つてほしい。こそこそされるのが、一番きらいだから・・・どうして、同じ人間なのに、いじめなきゃならないんだろと思つた。

同じクラスの仲間の思いを読んでも、あなた自身は、何を思い、感じましたか？

市議の坂本博隆氏が、フアン・ロドリゲスに参加。ロドリゲスは、アマチュアの世界では、大
勢のフアンが所属したチームを選び、アマチュア選手としてプレーした。

ファイブ—続々

上野 正雄 愛称募集の投票も

【例 1-10】(2013 年 11 月真题) 已知: $\text{Fe}^{3+} + \text{e}^{-} \rightleftharpoons \text{Fe}^{2+}$ 的 $E^{\ominus} = 0.77 \text{ V}$ 。则下列反应在标准状态下能自发进行的是 ()。[illegible]

三、发展生产，增加收入，是解决农村经济问题的根本途径。要大力发展农业生产，提高农业生产力，增加农民收入。要大力发展农村工业，发展乡镇企业，增加农民收入。要大力发展农村服务业，发展农村金融、农村保险、农村合作经济组织，增加农民收入。

1994年12月18日

[illegible]

1. 本報社址：臺南市中山路111號11樓（中山路與民生路交界處）
 2. 本報電話：(06) 221-1111
 3. 本報傳真：(06) 221-1112
 4. 本報郵政特准掛號認爲新聞紙類
 5. 本報登記證：警字第一〇八八號
 6. 本報社址：臺南市中山路111號11樓（中山路與民生路交界處）
 7. 本報電話：(06) 221-1111
 8. 本報傳真：(06) 221-1112
 9. 本報郵政特准掛號認爲新聞紙類
 10. 本報登記證：警字第一〇八八號

PROLOGUE

白人小学校6年1組学級通題 2006. 12. 20. No.144 森 久彰

今年の漢字

よくわかったの

12日に「命」という今年の漢字が発表されました。その前に子どもたちが予想していた文字になるかな、と期待していましたが、残念ながらちがいました。でも、子どもとの会話の中で、「お母さんは「命」じゃないかっていういた」ということを発表前にしていました。見事的中していて、驚いたと同時に、すごいった！と思いました。



那奈作

- ・何事でもお互い支え合って生活してきた「互助」・パレーで大正・芽生と五角の力（互角）・腰り合って物事を進め、みんなまで協力した（互譲）



明星作

- ・修学旅行などの初体験があったから
- ・スケートで初めて優勝
- ・初めてでのC級を必ずとる



田依作

- ・来年が亥年だから
- ・自分の年だから



唯作

- ・新しい年がはじまる
- ・中学校生活の始まり



桜作

- ・中学校に進学するから
- ・英文で進級したから



眞由作

- ・今年は色んな残酷な事件があったので衝撃を受けた
- ・学校の首の房美映（ゆかり）を見て心を撃たれた



勉人作

- ・今年はおれいことがあったから
- ・今年はおれいさんが死んだから



広夢作

- ・委員長に挑戦
- ・ボードに挑戦



佳奈作

- ・パレエの発表会で前で踊れるように努力した
- ・学級委員長に立候補した
- ・色々な司会に出て色々な事を学んだ



脇作

- ・和やかな年だった
- ・和の良さがわかるようになった
- ・和風の良きや里習に興味を持つようになった



友治作

- ・友達との友情
- ・手を取り合って助け合った
- ・色んな人と世話を焼く
- ・友達としての親しい付き合いがあった



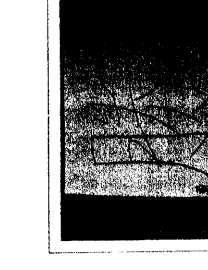
成貴作

- ・左手がだいぶよくなった
- ・事故から一年目
- ・耳の治療をはじめた



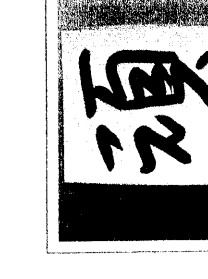
博信作

- ・日本ハムが優勝して嬉しかった
- ・家族で旅行に行けて嬉しかった
- ・WBCで日本が優勝
- ・野球の大会で優勝旗を取った
- ・みんなでお祝いした



勇政作

- ・日本ハムが優勝した
- ・野球の大会で優勝した
- ・卓球の色々な大会で勝ち進んだ



順也作

- ・運動会の粗体操を頑張ったから
- ・学習発表会の練習を頑張ったから